

2019 6月 スクールホットライン

部活動体験入部・授業参観

from 豊山中学校

今年度は、新入生159名を迎え、全校生徒437名でスタートしました。新1年生は4月当初は、緊張した様子も見られましたが、授業や生徒会活動、部活動が軌道にのり、中学校の生活に慣れ、生き生きとした表情で活発に活動しています。

豊山中学校では、文化部は文化創作部・吹奏楽部・英語部、そして運動部は、テニス・バレーボール・卓球・野球・サッカー・バスケットボール・ソフトボールがあります。新1年生は、部活見学や体験入部を通して、自分が3年間しっかり取り組みたいと決めた部活動に、一生懸命取り組んでいきます。部活動を通して、授業の中で身に付けることは違った力をたくさん身に付けてほしいと思います。また、2年生・3年生は、先輩としてそれぞれの部活動の中で中心となって活躍してくれることを期待しています。

4月の授業参観では、全クラスが道徳の授業を行いました。中学校では今

年度から「特別の教科 道徳」が始まり、道徳が教科化されました。

今年から教科書を使用して道徳科の授業が行われています。今までの登壇人物の心情に寄り添い、その思いを想像するだけでなく、子供たちが自分の考えや思いを他者の意見を聞く中で、深め合い広げ合うことができるような授業を行っています。また、子供たちの学習状況や道徳性に係る成長の様子を文章により評価もしていきます。子供たちが、道徳の授業を通して、これからの変化の大きい社会の中で柔軟に生きていく力を身に付けていけるよう、職員も研修を重ね、よりよい授業を目指していきます。



私の航空史

名航製初の飛行機 十式艦上戦闘機が 飛んだ!(下)

岡野 允俊

さて、華々しくデビューしたものの、飛行機を造るといっても欧米の飛行機なるものをどのようにして開発していくべきかまったく見当もつ

かなかつた。しかしこのとき、岩崎小弥太社長は社祖岩崎弥太郎の事業精神にのっとり、「いかに困難な事業であっても国家の役に立つ事業を行うのが三菱の責務である。今日なお未開発の航空機事業をはじめたのもまったく同じ精神である。国家的事業を行うという確固たる信念で努力してもらいたい」と述べ、ここに航空機が三菱の事業としてはじめられることになったのである。

それは、イギリス、ドイツ、フラ

ンスなどの先進国から既成の飛行機を購入し模倣する、あるいはそれら先進国の技術者を招いて実地に指導を乞うなど、いわば模倣と手習いからはじまった。まず、イギリスのソッピース社よりスミス技師以下9名を招き、彼らの設計による艦上戦闘機、艦上攻撃機などを次々に造っていった。そして、大正10年10月には早くも海軍の十式艦上戦闘機の第一号が完成し、パイロット・ジョルダンにより初飛行が行われた。

滑走距離の短い当時の飛行機は工場西側の草原のような飛行場から飛び上がったのだが、やがてこの飛行場では手狭となり、将来金属飛行機の出現とともに滑走距離が延びていくことを予見し、岐阜県各務原飛行場(現在の航空自衛隊岐阜基地)に整備工場兼格納庫を建設した。

その後、いつまでも外国人の力を借りているわけにもいかず、いずれわれわれ日本人の手で純国産飛行機を開発しなければならないという見地から風洞試験室、低圧試験室を設立し、基礎研究施設の充実をはかっていた。